

## 野山(のやま)

春日町の最西南部に位置し、氷上町大崎に接している。西側に山を背負い三方はひらけた田園地帯で、はるか東に黒井城跡が眺められる環境は良好である。戸数は二六八戸人口一〇四人。耕地は二〇ヘクタールあるが、地盤の関係や、平らかな地形なので溜池がつくられず、永年不便を感じてきたが、昭和二十七年に地下水のポンプアップ工事を完成させて干ばつ対策に成功した。また土地改良工事は昭和三十、三十一年に完了し、大型農業機械が存分に稼働できる態形をいち早くつくり上げた。現在、全世帯の九割が第二種兼業農家である。

産土神は熊野神社(祭神 伊奘諾尊)で、創立の年代は不明だが、大正十一年に神殿、拝殿を改築し、昭和五十三年に屋根を銅板葺きとした。村民の敬神の念あつく、常に境内は美しく保持されている。

教覚寺は、慶長二年に教春法師が開基した大谷本願寺末だったが、久しく無住となり、堂坊も荒廃していたのが近年手を加え、寵り堂となっている。江戸時代の寛政年代にこの地の医者山本嘉象(竹奄)が黛山塾をつくって近隣の子弟に漢学を教えていたが、元治元年に教覚寺の住職広崎宗鎧が、その塾を受け継ぎ寺小屋を開設。明治六年には新学制によって又新舎と名をあらため、さらに明治七年には野山学校となった。船城小学校発祥の地である。数年前、境内に、学校発祥地を記念する碑が建てられた。

また、教覚寺は文学博士村上專精生誕の地である。故村上專精は広崎宗鎧の子で、東京帝国大学名誉教授、大谷大学学長、真宗大学教授等を歴任した印度哲学の権威者で知られた仏教学の大家であった。観音堂の由緒も不明だが、氷上郡巡礼三十一番の札所だった。

区の西山の大崎境近くに野山砦の跡がある。黒井城の守りに大切な砦で、四百余年むかしの天正七年の黒井城攻撃の際、明智光秀の手によって潰えたが、黒井城の咽喉部の位置を占め、多くの戦話がある。野山村は、江戸時代の中ごろ刊行された「丹波志」には、村高二百六十七石余、民家四十五戸と記しており、旧家名家が多いと書いている。江戸時代は柏原藩領であった。



いま、野山区は、公民館(写真)を拠点として新しい村づくりがすすんでいる。公民館は広々として各種コミュニケーションの場としてうってつけである。古くからそうであったが、文化度の高い野山区の、これからの活動が期待されるのである。

(春日町誌より)